

「100年先も農業で豊かな地域を 委員が区・農家組合を巻き込み組織設立」

京都府 京田辺市農業委員会 普賢寺地区連絡会

1 農業委員会の体制と市町村行政との連携状況

○ 農業委員：	14人
○ 農地利用最適化推進委員：	11人
○ 事務局職員：	3人
○ 市町村行政との連携状況：	農業委員会の最適化推進会議や地区連絡会議に市が出席している



2 地区の特徴、状況、課題

- 京田辺市は関西学研都市に位置し、近鉄、JRが市の中央部を南北に走り、京都市、大阪、奈良への利便性が良く、丘陵地を中心に新興住宅地が開発され、都市化が進み、人口が増加している
- 普賢寺地区は、市の南西部の中山間地域に位置し、水稻、花き、果樹などが生産されている

3 委員による継続した話し合いの取組内容

- 平成30年10月から農業委員会委員による地区連絡会議がスタート
- 毎月の委員の話し合いから、既存の地域組織「農を考える会」の活動が停滞していること、地域の状況をしっかり把握すること等の課題解決に取り組むことが決まる
- 国際自転車ロードレース「ツアー・オブ・ジャパン」のコースになっていることや地域の環境美化、畦の草刈りの省力化をまとめて解決しようと、景観作物の試験栽培に取り組もうと決まる

4 成果（京力農場プランの目標実現に向けた取組内容）

- 令和元年6月、地域の農家組合と区、農家を包括する「普賢寺地区連絡会」が設立。委員が同役員会で地域づくりにむけた話し合いを毎月行う体制ができる
- 令和2年3月、農家アンケートや農地地図の最終確認を地区連で行い、市と分析や公表について話し合う
- 令和2年8月、退任・新任委員の引継ぎ会や景観作物栽培の結果発表、今後3年間の地域振興事業の申請が進む

※事例候補（地区連絡会議の単位が望ましい）の選定や作成にあたっては、農業会議の現地推進役と相談してください